

NPO法人社会還元センターグループわ会報

情報ギャラリー

第30号

情報ギャラリー第30号

発行日 2005年4月28日

編集 グループわ広報部

発行者 赤司 松美

発行元 NPO法人社会還元センター
グループわ

TEL(078)743-8101 FAX(078)743-3830

Eメール group-wa@wa-net.jp

ホームページ http://www.wa-net.jp

NPO法人第2回定期総会を迎えて

理事長 赤司 松美



グループわもNPO法人として、会員のみならずシルバーカレッジを初め関係者の温かきご支援により来る5月17日(月)第2回の定期総会をカレッジホールで開催する運びとなりました。「時代の要請に応え未来に向かって持続可能な発展的活動」を目指し、2年目の法人としてのグループわの進路を決する大事な総会でもあります。

つきましては皆様の更なるご理解とご支援協力を戴き総力を結集するためにも、万障繰り合わせの上、会員の皆様のご出席を賜りますよう心からお願い申し上げます。

NPO法人取得後1年を経過してグループわの現状と今後の対応について総会を迎えて簡単に所感を述べさせていただきます。

1. 法人格取得後の状況

昨年4月に法人格取得直後の5月第1回の総会において決定した活動方針、並びに予算に基づき企画委員会、運営委員会の審議を得て具体的活動を展開してまいりました。

法人格取得により、グループわの信頼度と期待度が著しく増し、神戸市より委託を受けたこうべ環境未来館の企画運営をはじめ、カレッジからの委託事業など行政、公的団体からの委託事業が得られるようになり、また長寿社会開発センター等よりの助成金獲得が以前に比べ得やすくなると同時にボランティア活動の依頼も増加し会員の皆様の努力によりその期待に応えることができたものと確信しております。会員活動の活性化および財政基盤の確立にもNPO法人取得が大いに貢献したことを実感しております。参画と協同の時代の要請に法人としてのグループわが今後如何にして社会還元の実をあげ寄

与して行くかを会員の皆様と検討し期待に応え、更なる会員の活動の場を提供して行きたいと考えております。

2. 新役員人事

グループわは高齢者の知識経験を生かし社会に還元し寄与したいとの意志で次々に新規卒業生が入会し先輩の活動を継承しその組織が維持されています。

人事についても当然ながら後継者に継承して行くことが肝要と考えています。

17年度はわの活動を理解し継承するに相応しい体制を構築して会員の皆様の期待に応えたいと考えております。

3. 活動方針

現活動を継承し、内外の期待と要請に応え新規活動にも柔軟に対応し活動を更に活性化することを基本方針と致します。

会員の中で本人および家族の健康上の理由で退会せざるを得ない会員がことしも多く見られます。こうした人への簡単な手助けを「お

互い様の気持ちで」会員相互扶助のシステムを構築し活動を始めたいと考えております。またボランティアに必要なスキルアップおよびコミュニケーションの場を提供する取組みも考えたいと考えております。会員の皆様の活動に対するご意見、お知恵を拝借しながら、グループわに入会して良かったと実感の持てる活動を展開できればと念じております。

4. 決算と予算編成

NPO法人格取得により従来の活動の評価と相まって信頼度が増し委託事業および助成金事業が予算作成時より予想以上の数となり、その結果来期繰越金も予想以上に増加する嬉しい結果になりました。これも会員皆様の協力と努力の結果と感謝しております。

会費制導入、法人格取得の総会での承認および会員の理解と努力により2年前の危機的財政状態は現況の心がけと努力を続ける限り一応脱却する見通しがつい

たものと考えられます。

運営上最低必要な繰越金、来るべきわ創立10周年記念事業および新規活動を考慮し、収入と支出を勘案し、会員の活動支援費のあり方を総合的に運営委員会で検討した活力ある予算の提案をさせて戴く所存であります。

目下本部、企画委員会、運営委員会で17年度総会議案について上記意向のもとに慎重に討議中であります。会員の皆様には、情報誌で配布提案し総会において討議して戴く所存であります。

議案書は基本的な事項であり総会は時間的な制約もあります。具体的実施に当たっては皆様の代表でもある運営委員の地区会長、部会代表に遠慮なく意見を申し出いただき、わの運営に反映されますようお願い申し上げます。

会員皆様の今後益々の活動と“わ”の発展を祈念して抽象的ではありますが所感とさせて戴きます。

本部

新委託業務が内定

神戸市こども家庭センター相談員

厚生労働省は平成17年度より全国の児童相談所に365日、24時間の児童相談体制を整備する方針を提示しました。これまでは相談所職員の勤務時間内だけだった相談電話の受付を24時間無休で受けるとなると、これまでの職員だけでは到底対応できません。時間外すなわち毎日の午後5時から朝の9時までと休日(土日、祝日)の昼間時間をカバーして相談電話の受付をする業務の依頼が神戸市こども家庭センターよりグループわにあり、受託する前提で同センターと話し合いを進めております。

環境未来館と同様に20名程度のグループを組み、交替しながら各人が月に1~2回勤めるように考えています。勤務時間などは右の募集欄をご覧ください。

生活力アップセミナー

男の台所学全 6回楽しく終了

男のための食育講座実行委員会、(財)兵庫県予防医学協会、NPO法人社会還元センターグループわ、白井操クッキングスタジオ、神戸市保健福祉局が主催するセミナーが健康ライフプラザ4階のライフキッチン(JR兵庫駅南)を会場として、白井操先生の指導のもと食文5、6、7期生の男性(5期の女性も応援)が講師となり、60歳以上の男性を対象に2004年12月3日に第1回の「これさえあればなんとかなる基本の4品」から始めました。受講者の殆どは料理の経験がなく、ご飯の炊き方、味噌汁の作り方など基本的なところから始め、2005年3月4日の第6回「大勢で楽しむ食卓」では、さまざまなお寿司を作り、パーティーで楽しく終わりました。なおセミナー各回

募集コーナー

●こども家庭センター相談員

主な勤務内容：

相談電話受付 児童相談など
来訪者ヘインターフォン応答

勤務時間：

夜間 17:00~翌朝 09:00
(00:00~07:30 休憩・仮眠)
土日祝日 08:45~17:15

勤務場所：

神戸市こども家庭センター
(ハーバーランド)

報酬：

勤務報酬+交通費

勤務：

月に1~2回(6月から開始)

就業研修：

5月中旬予定

申込み：

グループわ事務局に5月17日までに申し出てください。

●パソコン講座アシスタント

17年度も新入生を迎え体験講座を含めて6月から来年3月まで通年のパソコン講座がカレッジ主導で行われます。グループわはことしもアシスタントを担当し参加します。パソコンの経験、知識をお持ちの方にアシスタントをお願いしたく、ご応募をお待ちしています。期間は6月から18年3月、内容は、パソコンの基礎、ワード、エクセル、パワーポイント、デジカメ&画像、インターネット、電子メール等で初級コース、中級コースの設定が計画され

ています。詳しくはグループわ事務局(743-8101)までお問い合わせください

●有馬温泉観光ボランティアガイド
内容：有馬温泉観光案内所前で日帰り温泉、ホテルの場所、名所の場所、駐車場等の案内。毎月1回程度の割合で、2名で行います。

日時：土日祝日(正月は除く)、
10時~16時

謝礼：寸志、金泉入浴券

応募：希望者はグループわ事務局(743-8101)までお問い合わせください

●滝谷ホーム宿泊ボランティア

内容：軽度の知的障害者4人が自立のためグループホームで生活しています。昼間は職場へ出勤します。日常の食事等を世話する方がいますが、夜8時に帰ります。その後の見守り支援です。夜8時前から朝8時過ぎ迄で、戸締まり等確認します。

日時：毎週水曜日

謝礼：有り

場所：兵庫区滝谷町(市バス65系統滝山町下車レストラン水車の前)

応募：希望者は、グループわ事務局(743-8101)までお問い合わせください



最終回のお寿司作り

のレシピや進行状況の写真など詳しい情報は

<http://www.kobe-kokoro.info/>
をご覧ください。(事務局)

9期生・他入会状況

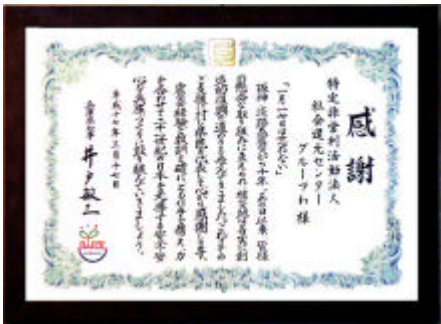
2005・4・18現在

コース	新入会者数
福祉	27
国際	33
生環	30
美工	5
音文	23
園芸	4
食文	17
一般	8
合計	147

注：在学生7名を含みます。

震災復興活動に対し 兵庫県知事から感謝状

去る3月28日、兵庫県総括部生活復興課から兵庫県知事名の感謝状が送られてきました。同県では震災10周年を機に3月17日県公館大会議室において開かれた「震災復興感謝のつどい」で、震災からの復旧・復興活動に従事した者や震災復興の活動記録に応募した者に対して感謝状を贈呈し、わもその対象に選ばれており、当日出席してなかったので届けられたのでした。



新グループ誕生

新しいグループが2つ発足し、それぞれの代表から紹介と勧誘のメッセージが届けられました。

大正琴プリムラ

代表(国5) 浅野 礼子

創部5年目の「大正琴プリムラ」です。卒業生の人数によりことしからグループわに加入することができました。唱歌・童謡・ポップス・流行歌等々、訪問する施設や各種イベントに適應するよう練習に励んでいます。

涙を流して喜んで頂く姿を見ると一層頑張ろうと部員一同日々精進しています。部の motto は「楽しく、笑顔で、口ずさんで頂けること」です。

ことしも多くの方々とお逢いできるような心待ちにしています。

手話コーラス同好会

代表 山下 春美

この度、私たちKSC手話コーラス部で在学中に練習してきた、手話コーラスを愛するOB、OGが集い、再び活躍できる場として、グループわのボランティアグループとして手話コーラス同好会を発足することになりました。

手話コーラスは誰でもが親しんだ歌を唄いながら、その歌詞を「見る言葉」手話で表現する大切なコミュニケーションの手段です。

今後の活動はKSCの現役とタイアップしながら、地域福祉センター等を友愛訪問し、交流を深めていきたいと考えています。

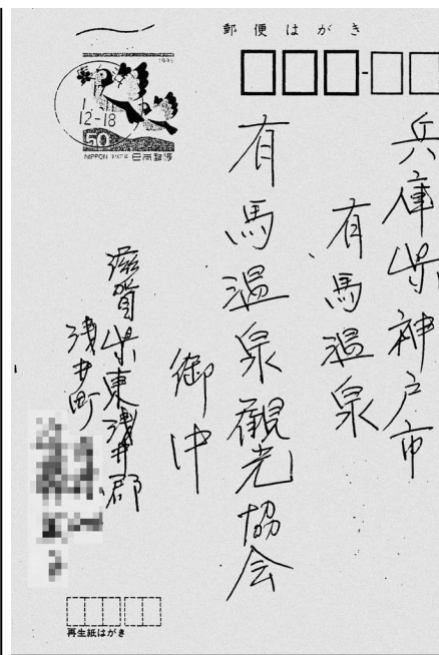
手話の知識がなくても、唄いながら楽しく覚えられ、脳の活性化に大いに役立ちますので、入部をご希望の方はわの事務局までお申し出ください。

これも嬉しい感謝状

有馬温泉観光協会から1通のハガキが転送されてきました。温泉客からの礼状ですが、ボランティアの喜びが改めて実感できる文面ですのでご紹介します。

前略

一月九日、寒い小雪降る有馬の地で太閤の湯殿館に立ち寄らせていただきガイドの坪井様に長時間のこころもる説明をいただき本当に有馬の湯の様な身体の底からのぬくもりをいただきました。生きがいですとおっしゃっておられたお姿にも感動し、私達夫婦もこれからの生き方をご指導いただいた様で心に残る一日でした。さすが有馬の歴史の中の人と説明の感で、今後とも続けていただきたいと願いつつお礼申したく、よろしくお伝え下さい。



078-743-3830

専用FAXが付きました

これまでカレッジのFAXを利用させてもらっていましたが、先日専用のFAXをわ事務所に設置しました。今後はこの番号をお使いください。直接グループわ事務局のスタッフに届きます。

パン販売応援員募集

障害者の方が毎週木曜日、KSC内でパンを販売していますが、その応援者を募っています。時間は午後1時半~午後3時です。報酬は未定です。してみようと思う方は事務局にお問い合わせ下さい。

FFP入園証 希望者に発行します

フルーツフラワーパーク(FFP)のご厚意で会員の皆さんに入園証(記名式)を発行しています。これを入園時にゲートで提示すると本人のみ入園料と駐車料金が無料になります。

ご希望の方はグループわ事務局(078-743-8101)までお申し出ください。

総会議案書同封です

総会席上でご覧頂く議案書を今回も会報と同封でお手元までお送りしています。当日はお配りいたしませんので総会には必ず各自でご持参ください。(事務局)

NPO法人ボランティア保険について

第9期生の皆様ご卒業おめでとうございます。

ご卒業後もグループ わ に加入して引続きボランティア活動にご参加頂ける皆様に、グループ わ が加入している保険について簡単に説明することにします。

これまで皆さんが加入されていた「兵庫県ボランティア・市民活動災害保険」は、個人と保険会社との契約であり、団体の一員としての契約とは異なります。

従って万が一事故が発生した場合は個人として保険金の請求を行なうことになります。

しかしグループ わ は一つの団体であるため、例えば会員が事故により他人の身体や財物に損害を与えた場合、法律上の賠償責任を個人のみならず団体に対しても求償される場合があります。これによって被る損害をNPO法人ボランティア保険はこれをカバーしてくれます。またボランティア活動中の個人の傷害についても補償されます。

ただし会員がボランティア活動のため自宅と活動場所との間の通常経路往復中における交通事故については、第三者に対する損害または障害事故について会員本人が加入している自動車保険によるものとします。

補償内容は次の通りです。

補 償 項 目			保 険 金 額	
賠償責任 保 険	賠償責任 (免責金額なし)	対人・対物共通	1事故・保険期間中	2億円
		管理財物	1事故・保険期間中	50万円(現金は10万円)
		人格権侵害	1名(1事故・保険期間中)	50万円(100万円)
	事故対応費用		1事故・保険期間中	500万円
	見舞費用		死亡	50万円
			後遺障害	1.5万円~50万円
入院日数に応じて2~10万円/通院日数に応じて1~5万円				
傷害 保 険	死亡保険金額		535万円	
	後遺障害保険金額		535~16.05万円	
	入院保険金日額		8,000円	
	手術保険金額		入院保険金額日額の10・20・40倍	
	通院保険金日額		5,000円	

(本部)

国際部会

外国人のための日本料理教室を開催

国6-国 黒田 宏

場 所：クリスタルタワー 4階 料理教室



長寿社会開発センターからの助成金による日本文化の伝承事業として日本の伝統家庭料理を紹介・試食する料理教室を神戸市内の外国人を対象に開くことにし、昨年11月に計画していたが、応募者が3名と言うことから延期せざるを得なかった。場所を交通の便の良いクリスタルタワーに変えて再度呼びかけたところ去年のことが嘘のような盛会となった。

インドから3名(1名欠席)韓国3名、米国5名(1名欠席)カナダ4名(1名欠席)スペイン1名、英国1名、ウクライナ1名、ミャンマー1名、フィリピン1名、台湾1名と合計21名(女性15名、男性6名)の参加があり、正に日本料理(チラシすし、茶碗蒸し、白玉団子)を通して国際交流ができた。

最初、参加者はもちろん、講師役側も緊張していたが、料理が進むにつれお互いになれ慣れ、会話も弾むようになった。多くの外国人は多少日本語を解しているようであったが、主要言語はやはり英語で通訳も英



語、韓国語、スペイン語で対応した。

当初、外国人の応募が実際どのくらいあるのか、またどのように募るのか検討がつかず戸惑いもあったが、神戸市との関係機関、例えば国際協力・交流センター、総合教育センター、YMCA等をお願いした結果、9ヶ国からの留学生や交換教師らの応募があった。

自分達で作ったチラシ寿司、茶碗蒸し、白玉団子を残すことなく食べながら、他国の人々と交流できたことは素晴らしい体験であった。



神戸国際交流フェア 2005年に参加して

国7-国 鐘築 重治

神戸国際交流フェアは平成9年1月に「がんばれ! こうべっこ国際交流フェア ~ GO K O B E ! 震災復興2周年」として開催されてから、今回で9回目を迎える。

特にことしは阪神・淡路大震災10周年の節目の年に当り、震災復興をアピールするために開かれた。

2005年2月5日(土) 10:00~17:00、神戸市および近隣の国際交流・協力団体が“きて、みて、たべて、未来の神戸を見つめよう!”をテーマに2会場に部門別に分かれて次のような多彩な催しが行われた。

*団体紹介ブース 各国料理・飲料の試食や販売を通じて団体活動を紹介。

*物品販売ブース 団体活動に関連する各国民芸品の販売を通じて団体の活動を紹介。

*パネル展示 国際交流・協力団体の活動を写真・ポスター・資料等で展示紹介。

*ステージ 各国国際交流・協力団体による歌・演奏・民族舞踊等のパフォーマンス

当日は、わ国際部会活動

紹介展示ポスターを掲示し、配布資料として、NPO(法)社会還元センターグループわ 活動紹介冊子と、シルバーカレッジの紹介パンフレットをセットにして、訪れる人々に説明のうえ手渡した。

好天に恵まれた日曜日でもあり、地元ハーバーランド会協賛の賞品、神戸市諸施設の入場券が総数で568本当たるスタンプラリーによる抽選もあり、朝早くから親子づれの来場者で賑わいを見せ、終日にわたり大盛況を極めた。

スペースシアター会場では、各国民族舞踊、演奏、合唱、日本伝統芸能の紹介など国際色豊かなステージパフォーマンスが繰り広げられ、出演者に惜しみない拍手が送られるとともに、各国料理・飲食品の販売とあいまって多数の人々でごった返していた。

デュオドーム会場では、団体活動紹介のパネル展示を主として、一部物品販売ブースと食品販売ブース、ならびに「震災10年神戸からの発信」の上映が行われた。

スペースシアター会場に比べれば、展示主体で派手さはなく素通りする人が目立った。(次ページに続く)

(前ページから続く)

映像上映では10年前の震災の悲惨な状況が映し出され、自助努力もさることながら、多くの人々の援助協力により今の神戸の復興があることを思い出させられたが、足を止める人は少なかった。

震災は忘れた頃にやってくる!というが、震災の経験や教訓を風化させないためにもいろいろ考えさせられることが多かった。

国際部会々員による手作りのポスターは構成抜群の色鮮やかな作品であり、参加団体より次年度紹介ポスター作成の参考にしたいといわれた程である。作成に携わっていただいた部会員に紙上を借りて感謝申し上げます。

訪れた人の中には、自分も将来シルバーカレッジに入り国際交流について勉強したいという人や、自分の祖父母に入学を勧めたいといった若者もいて、35人余りの少ない来訪者にもかかわらず意を強くした次第である。

私たち国際部会は、フェアに参加した国際交流・協力に各種団体からいろいろ学ぶことがあり、今後ともこのような催しをつうじて友好の輪を広げるとともに、連携協力して活動を進めたいと考えている。

今年はフェアのPR不足で来場者が少なかったが、2008年の春、同じ催しが開催されると思われるが、展示出品にさらに工夫を重ね、私たち国際部会の活動が、広く一般市民にアピールできるような発表につながるように頑張りたい。



日本の昔遊びを外国人学校の生徒たちに紹介

国6-国 黒田 宏

昔あそびには生徒たちだけでなく、先生たちも童心に返って竹馬、コマ、ブンコマ等々に盛んに挑戦して楽しんでいました。

カナディアンでは竹馬で遊ぶことはすでに実施されていたようであるが、日本の竹馬は初めてのようであった。すなわち我々は足を乗せる部分を足の裏に平行にして乗っているが、彼等は足の裏に直角になるように足乗せを左右に向けて歩いていた。どちらが乗り易いのだろうか?こんな些細

昨年まで行ってきた長寿社会開発センターからの助成金による日本文化の伝承事業を、ことしは親子の世代間の伝承だけでなく、外国人へ紹介することも含めるように対象を拡大した。その一環として昔遊び塾を神戸市内の外国人学校の子供たちを対象に開くことにした。

学校当局と折衝の結果、マリリスト国際学校とカナディアンアカデミーが受け入れてくれることになり、マリリストは2月7日(月)カナディアンアカデミーは2月22日(火)に文化部のむかしあそび研究会のメンバーと国際部会のメンバー(通訳担当)が出向いて実演や指導を行った。

子供が真剣な顔付きで取り組む姿は良いもので、外国の子供たちが繰り返し繰り返しトライし、できるようになったときの喜びの顔はこの国の子供も同じである。

実技が主体だったため通訳の必要も殆どないまま心を通わすことができた。従来しあわせの村やKSC内で開催してきた「昔あそび塾」は時間をたっぷり(3~4時間)かけ、子供たちが遊びのコーナーを自由に往来できたが、マリリストおよびカナディアンの場合いずれも「日本文化週間」における授業の一環として組み込

まれているため、時間に制限があり、自由にコーナーを巡ることはできなかった。カナディアンでは、学年別グループごとに時間を設定し、各コーナーを一定の時間内に順序良く体験しながら回れるようにした。

マリリストでは、グループ分けはなかったが、小学生と中・高校生の二つに分け、時間帯を変えてあそびに挑戦できるようにした。

従って生徒によっては同じものに時間を割いて挑戦できた。一方カナディアン



の場合、短時間ではあるが全員が一通り全部のあそびを体験できた。子供達にとってどちらが良かったのか今後の課題である。

マリリスト国際学校の場合、昨年の「日本文化週間」において開催の予定であったが、先方の都合で中止となり延期されたもので、ことしは予定通り2月7日(月)に開催することができた。

なことで洋の東西でやり方が違うのに驚き、また国際交流の必要性も感じさせられた。

後日カナディアンアカデミーから訪問に対する子供たちのお礼の手紙が送られてきた。100通を上回るすべてを照会することは紙面の都合上できないが、一部を別項に掲載したのでご覧頂きたい。

環境部会

親子であつまれ

炭焼き体験塾

生6-環 森佳代子

(財)長寿社会開発センターの後援を得て、「炭焼き体験塾」をグループわ本部の主催、環境部会ケナフの会の協力で、平成17年3月12日(土)10~12時、シルバ-カレッジ中庭で行った。一方、当日は午後にはしあわせの村研修館ホールで「昔あそび塾」も行われた。

参加人員

当日は風が強く寒い日であったが、子供29名、大人

は不可能である。炭焼き体験塾は昨年度に引き続いて2回目のイベントで、昨年の経験を活かして、限られた時間内で、炭焼きの臨場感をできるだけ体験して貰えるように

(1)前日に約24時間かけて焼いた竹炭を、当日朝に炭焼き炉から出し、炭のでき具合を見せる

(2)あらかじめ準備した竹素材を炭焼き炉に子供達が装入する

(3)炉に子供が火入れする

(4)子供達が炭焼きの状況を覗き窓から観察する

(5)前日焼いた竹炭を子供達が用意したビニ-ル袋に入れ、炭焼き体験の記念とし

い、まず、炭焼き炉の説明を行った後、次の順序で炭焼き体験をして貰った。

(1)前日焼いた竹炭を炉から取り出し、炭のでき具合状況の見学と説明

竹70kg炭焼きして約22kgの竹炭ができた状況は臨場感のある光景で、我々も何度経験しても感動を覚える瞬間であるが、参加者からもウォ-と言うような声があがり、臨場感と炭はこのように焼けるのを見て、体験して貰った。

(2)炭焼き炉への竹の装入作業

炭焼きをするためには、まず炉に備えつけられた鉄籠にあらかじめ裁断した6つ割れの長さ約50cmの短冊状の竹を隙間のないように詰めることが必要である。この作業を子供達全員で交代して体験して貰った。幼稚園から小学校6年生までの子供達であったが、小さい子供は親が手伝い嬉々として作業してくれた。親子での共同作業は体験塾のよいところであり、微笑ましい光景であった。竹を詰めた鉄籠は炉に備え付けた揚重機を用い炉に装入し、炉の蓋をして準備を終了した。

(3)炭焼き炉の点火および炭焼き体験

炭焼きは点火後、薪を焚きながら、送りこむ空気量を調整して、約4時間かけて350~400に加熱し、更に1時間保持し、その後は炉を密閉して翌朝まで徐冷して炭を作る。

当日は、子供に点火して貰い、また薪の炉への入れ作業を体験させると共に、覗き窓からの炭焼き状況の観察を子供達に体験して貰った。子供達は炉内の火の様子や煙突からもうもうと

上がる煙や炉内温度計の上がり状況を興味深く見、ある程度の炭焼き体験を感じてくれたように思った。

(4)前日焼いた竹炭の配布

竹炭の消臭、水浄化、土の改良等竹炭の上手な使い方方を説明した後、用意したビニ-ル袋に子供達がそれぞれ炭を入れ、炭焼き体験の記念として持ち帰って貰った。

ふりかえってみよう

最後に美工室で「ふりかえりシートに書きましよう」および「ふりかえってみよう」を行い、参加者から「炭焼きの体験ができて大変よかった」「大変お世話になりました」等のお礼が多数述べられ、成功裡に終えることができた。

所感

炭焼き体験教室は、炭焼きする竹の準備、炭焼き炉の搬入設置、前日の炭焼き等準備が大変であったが、参加の子供さん、親から大変感謝され、我々の苦勞も吹き飛んだ思いであった。ご協力頂いたグループわ本部スタッフ、ケナフの会の皆様から心から感謝致します。



27名計56名(20家族)の参加があった。主催側はわ本部スタッフ、環境部会ケナフの会・在校生ケナフの会約20名が出席し、種々の準備、指導をした。

炭焼き準備

炭焼きは当日使用した「短時間で炭焼きができるように開発された炭焼き炉」を用いても炉への竹の装入 火入れ 炭焼き 炉からの炭取り出し等一連の作業を終るには、24時間かかるので、数時間ですべての作業を体験して貰うこと

て持ち帰れる等の諸準備を事前に行った。

当日使用した炭焼きの竹は阪神淡路大震災10周年「鎮魂の灯」に用いられた竹を使い、子供達にそのことを説明した。これらの準備はケナフの会員で行い、延べ人員約60名、延べ時間約250時間をかけて実施した。

実施状況

参加者は、皆、炭焼きは始めての方で、シルバ-カレッジ中庭に設置した炭焼き炉の周囲に集まって貰



文化部会

文化部会実態調査の後半です。紙幅の都合上、表は縮小しました。

文化部会の実態紹介(2/2)

国6 文化部会長 芝野 公男

4. ボランティア活動の状況

全グループの定期もしくは不定期のボランティア活動の状況を第8表に示します。定期活動は現在定期的に特定の施設に行っている活動で、同一施設内でもフロアや建物が変わって、別の対象者に対して行う場合は、別の訪問先として記入しています。訪問頻度の欄で分母のyは年を、mは月を表しており、例えば(2/m×3)とは、月に2回訪問する先が3ヶ所あるという意味です。不定期活動は、過去1年間の訪問先と訪問回数を示しています。また給付の欄は謝礼、交通費、食事等の有無を表しています。

訪問活動以外のボランティア活動としては2件あり、一つは「あかりの会」

で、視覚障害者のための朗読録音テープの作成を行ったものです。選んだ図書は「入門歳時記」で、その朗読録音、校正、編集に1年余りの期間をかけ、部員15名が延1910人・時の工数を費やして完成し、これを「兵庫県立盲学校」と「声の図書赤十字奉仕団」に寄贈しました。

もう一つは書道部で習字の手本を5人・時をかけて作成し、これをボランティア活動先に寄贈しています。

5. 組織運営活動

組織運営のために会則を制定し、諸会議を持っているかどうかを第9表に示しています。

第10表には部員から徴収している会費を示しています。会則を制定しているのは半数強のグループで、

NO	グループ名	定期活動				不定期活動			
		先方	訪問頻度	給付		訪問先	訪問件数	給付	
				有	無			有	無
1	あかりの会	3	1/y	2	1	2	2	1	1
2	有馬観光ガイド	2	8-10/m, 12-15/m	2					
3	SCハワイアンズ	1	2/m	1		10	13	12	1
4	絵手紙グループ	3	2/m, 4/y, 1/m	3		5	6	8	
5	折紙めくり紙・俳句	2	1/m, 2/m	2					
6	グリーンエコー	4	1/m	2	2				
7	KSC男声合唱団					18	19	3	16
8	フラダンスクラブ	6	2/y×4, 2/y×2	6		5	5	4	1
9	コーロKSC	4	1/m×4		4				
10	小唄ぐるみぶ					7	7	8	2
11	茶道部					1	1		1
12	手芸グループ	3	1/m, 2/m, 2/y	3	1	2	2	2	
13	書道部	6	2/m, 1/m×5	6	1				
14	新舞踊クラブ	3	6/y, 1/y×2	3	1	10	12	4	8
15	鏡太鼓同好会					25	28	19	9
16	琴友会								
17	なでしこ	3	1/m×3	3		2	2	2	
18	俳友会	1	1/m	1					
19	筆の会	1	2/m	1					
20	はたる座					11	12	6	6
21	マジックグループ					16	18		7
22	民謡クラブ					11	12	6	6
23	わかしあそび研究会	6	3-4/y×2, 3-3/y×2, 2/y×1, 1/y×3	6	2	5	5	3	2
24	楽道クラブ新種					21	28	28	3

第8表 ボランティア活動の状況

役員会運営委員会を持っているのは半数に満たない。総会は半数強のグループが

持っている。人数の少ないグループでは大げさな組織を作る必要(次ページに続く)

NO	グループ名称	活動内容	人数	代表者		
				氏名	期	コース
1	あかりの会創設部	視覚障害者、小学生、老人向けの朗読やテープの作成、紙芝居の上演	14	原田 照男	1	音文
2	有馬観光ガイドグループ	有馬観光案内所及び別荘館で観光客へのガイド	43	横山 忠明	4	福祉
3	SCハワイアンズ	福祉施設でのバンド演奏やフラダンス演奏、イベントの協賛	11	結尾 一士	4	音文
4	絵手紙グループ	高齢者福祉施設で絵手紙の指導	4	岡崎 ヒロミ	6	福祉
5	折り紙・折紙めくり俳句あそびグループ	高齢者福祉施設や児童館で折り紙や折り染めを教える、俳句の指導	9	伊藤 公子	1	美工
6	グリーンエコー	高齢者福祉施設で童謡や季節の歌を一緒に歌う	8	五味 登美子	2	生障
7	KSC男声合唱団	福祉施設で男声合唱の演奏、イベントの協賛	21	小西 豊	6	音文
8	KSCフラダンスクラブ	福祉施設でフラダンスの演奏、イベントの協賛	3	中沢 千枝子	6	音文
9	コーロKSC	高齢者福祉施設で混声合唱の演奏、イベントの協賛	70	倉島 律夫	8	美工
10	小唄ぐるみぶ	福祉施設へ小唄や手話歌の出演	11	藤原 俱子	1	食文
11	茶道部	茶道のお点前で抹茶のサービスの出演	31	宮宗 一夫	5	生障
12	手芸グループ	高齢者福祉施設や子供の家で編み物や手芸のお手伝い	22	岸 一恵	7	福祉
13	書道部	高齢者福祉施設で習字の指導	11	訖摩 信俊	4	国際
14	新舞踊クラブ	高齢者福祉施設で日本舞踊の演奏、イベントの協賛	9	岡田 京子	5	国際
15	鏡太鼓同好会	高齢者福祉施設で鏡太鼓の演奏、イベントの協賛	10	井上 善道	5	食文
16	琴友会	福祉施設で琴の演奏、イベントの協賛	6	富山 節子	2	音文
17	なでしこ	高齢者福祉施設で歌遊び、表裏遊びや手話歌を一緒に歌う	8	原田 照子	3	音文
18	俳友会	高齢者福祉施設で俳句活動の支援	5	金田 英夫	6	食文
19	筆の会	高齢者福祉施設で書道を通じてコミュニケーションをはかる	7	藤男 和代	1	福祉
20	はたる座	幼稚園、小学校、福祉施設へ人形劇、マジック、魔法術の出演	16	真地 彦允	5	食文
21	KSCマジックグループ	福祉施設、幼稚園、小学校等でマジックの演技	16	古宮 章	7	生障
22	民謡クラブ	福祉施設で民謡の演奏、イベントの協賛	23	宇田 正友	8	国際
23	わかしあそび研究会	幼稚園、小学校等で子供に昔の遊びを教える、昔の暮らしを語る	42	波路 忠義	5	福祉
24	楽道クラブ新種	高齢者福祉施設で鏡太鼓の演技、イベントの協賛	19	藤井 玲子	6	音文

第1表 文化部会グループの紹介

(前ページより続く)はないが、会員が20名を越すと運営のための組織や会議が整備されていくようです。

会費を全くとっていないのが8グループあるが、徴収しているところでは月額500円から1000円の間が主流のようです。特別の技能を持つ指導者に指導料を払って、しかも練習の頻度が高く、会場費等の出費が嵩むところでは会費を高くしないと運営できないのは当然でしょう。

6. 助成金・加盟団体

外部の助成金受領の状況について、過去1年間の実績を第11表に示します。

グループとして或いは個人で加盟している外部団体を第12表に示します。

7. 非ボランティア活動

KSCやわの主催する行事以外で、他の団体の主催するボランティア活動でない演奏会、発表会、展示会、展示会等に参加したり出品したり、或いは単独でコンサートや発表会や展示会等を実施した実績の主なものを、過去5年に遡って記入を要請しましたが、各グループによる設問の解釈の違いもあって(明らかにボランティア活動と思われるものが多い)、記入されたすべてのものを表にまとめることはできません。そこで部会長の独断で、主たるイベントについてのみ第13表に挙げておきます。コーロKSCの活動が際立っています。◆

会費(月額:円)	グループ
0	8
500	1
700	1
1000	4
1500	2
3000	1
会費(年額:円)	
1000	2
3000	1
6000	2
8000	1
16000	1

第10表 会費



グループ名	助成団体・事業名	助成金額(円)
KSC男声合唱団	兵庫県社会福祉協議会	50,000
コーロKSC	阪神淡路大震災復興基金	100,000
〃	神戸市芸術文化活動助成金	127,000
銭太鼓同好会	兵庫県震災復興基金	50,000
俳友会	松寿園俳句会	20,000
むかしあそび研究会	須磨区社会福祉協議会	20,000
楽遊クラブ銀雅	阪神淡路大震災復興基金	50,000

第11表 助成金受領状況

会則	制定している	制定する予定	制定していない
	13	1	10
	役員会	運営委員会	総会
あり	11	7	13
なし	13	17	11

第9表 組織運営

グループ名	加盟団体
あかりの会	日本赤十字社兵庫県支部：声の図書赤十字奉仕団
SCハワイアンズ	神戸ハワイアン倶楽部(個人加盟)
コーロKSC	兵庫県合唱連盟
書道部	日本書芸心龍会神戸支部(個人加盟)
俳友会	あすなる俳句会
むかしあそび研究会	県立神戸生活創造センター

第12表 加盟している外部団体

平成12年~16年

グループ名	イベント	主催者	開催時	場所
SCハワイアンズ	ハワイアンウクレレコンサート	神戸ハワイアンクラブ	H.16.2.28	酒心館
KSC男声合唱団	ジョイントコンサート	シルバーエコー篠山	H.15.11.11	篠山市民センター
	北区民文化祭	神戸市北区役所他	H.15.11.23	すずらんホール
	雲南民族音楽コンサート	神戸市中国雲南芸術交流団	H.16.10.24	シーガル神戸
コーロKSC	あじさいコンサート	神戸市あじさいコンサート実行委員会	H.12,14,15,年	神戸文化ホール
	兵庫県合唱祭	兵庫県合唱連盟	H.12.13.14.15.16年	いたみホール他
	全国シルバー合唱コンクール	神戸市他	H.12,13,14年	神戸文化ホール
	琵琶湖周航の歌音楽祭合唱コンクール	滋賀県今津町	H.12.6.25	今津文化会館大ホール
	淡路花博ジャパンフローラ2000	兵庫県夢の架け橋記念事業協会	H.12.9.10	淡路花博会場
	第1回夢コンサート	コーロKSC	H.13.2.28	神戸文化ホール
	ふれあいの祭典・合唱の祭典	兵庫県ふれあいの祭典実行委員会	H.13.11.18	津名町しづかホール
	国民文化祭・合唱祭	文化庁、鳥取県他	H.14.10.13	倉吉未来中心ホール
	第2回夢コンサート	コーロKSC	H.15.11.28	神戸文化ホール
祈りのステージ	コーロKSC	H.16.12.9	神戸文化ホール	
書道部	書道展	KSC書道部(OBと在校生)	H.13,14,15年	しあわせの村本館他
新舞踊クラブ	淡路花博ジャパンフローラ2000	兵庫県夢の架け橋記念事業協会	H.12.5.23	淡路花博会場
	神戸のおどり	神戸文化協会	H.12,13,14,15,16年	神戸国際会館
	淡路花博	淡路花博記念事業協会	H.14.5.6	淡路島野外劇場

第13表 非ボランティア活動の状況

東灘区会

園児と共に「食育」ボランティア

音5 東 藤井 潤子

兵庫県では「食が心と身体をつくる」という観点から子供たち自らが「食」について考える習慣を身につけてもらうことを目的に「食育」を推進しています。

兵庫県神戸農水振興事務所から神戸市立遊喜幼稚園の食育ボランティアの依頼を受け、私たち(東灘区会)は「食育」活動の一環とし

りました。可愛い孫のような園児が小さなバケツにいっぱいの土をオジさん?たちに入れてもらい、両手に持って運ぶ姿が一生懸命でとっても微笑ましく感じました。

園児は約30名の参加です。園長先生はじめ他の先生方も作業です。畝は培養土、バーク堆肥、石灰、

こにまくの?」と言いながら私の手に入れてくれました。

3回目の3月30日は小松菜の間引きとラディッシュの種まき。ラディッシュは間引きの手間を省くため、ポットに1粒ずつまきます。

3号ポットで220鉢。用土は培養土に腐葉土を混ぜたもの。この日は園児は春休み。6月のジャガイモの収穫が楽しみ。

指導者は園芸7期の富永 征児さん。食育ボランティアのメンバーは現在12名です



て野菜作りのボランティアに参加することにしました。

園児と共に畑の畝作りから種まき、植え付け、育成、収穫を行いながら「食育」の一助となればと考えています。

第1回は平成17年2月22日が畑の畝作り。園庭に長さ12m、巾60cm、高さ30cmの畝を1本作

化成肥料等でバッチリです。

2回目の3月9日はジャガイモの植え付けと小松菜の種まき。1つのジャガイモを男女の園児がペアで仲良く植え付けていました。ホント収穫が待ち遠しいといった様子でした。小松菜の種は小さいのですが、手のひらに3粒ほどのせて来て「これど

兵庫区会

JR兵庫駅で観光ボランティア始まる

音2 兵 宮城 智子

今春卒業の9期生を迎えて兵庫パンジーの会員は80名になりました。

親睦を密に、自分に合ったボランティアにも参加し、近くに住んでいる仲間としてお互いに助け合っ

て行こうと今日まで来ました。市の社会福祉からの生活支援や、特養と利用者の橋渡し役であるサポーターへの依頼にも多くの方々が参加して下さいます。

またこの度は、兵庫区役所まちづくり推進課の依頼でJR兵庫駅構内での観光ボランティアが3月

下旬より始まり、毎日曜日の午前10時~12時まで、改札口の正面で兵庫区内の観光地などのPRをしています。見かけられましたらどうぞお声をかけ下さい。

会員も年々加齢して行く中で、9期生の新しい仲間も加わって、1日でも長くみんなが、笑顔で動けるようにと願っています。無理をしないで楽しく仲間づくりをしようとするのが、兵庫パンジーの会です。皆さんよろしくお願ひします。



JALチャーター機で行くロマンの道シルクロードへのお誘い ウルムチ・トルファン・敦煌・西安9日間

旅行期日：9月17日(土)～25日(日)

旅行費用：248,000円(お一人様)(朝7回・昼7回・夕7回付)

募集人員：100名(定員になり次第締め切ります)(関西地区募集)

利用航空会社：日本航空

添乗員：日本より同行します。(観光・現地ガイド付)

申込締切：7月29日(金)

別途 関空、現地空港使用料等要します。(6,650円)



月日	スケジュール	宿泊/食事
1日目 9/17	夜、関西空港発JALチャーター機にて空路ウルムチへ?(約6時間) 深夜ウルムチ到着後バスにてホテルへ	ウルムチ 泊 機
2日目 9/18	午前ホテルにて休憩(自由散策) 午後ウルムチ観光 紅山公園、楼蘭美女ミイラで有名な 新疆ウイグル自治区博物館 を観光後 大バザール 案内	ウルムチ 泊 ホ・田・新
3日目 9/19	終日バスにて天山山脈へ、中国のスイスと称される美しい湖 天地の観光その後、トルファンへ、高昌国の遺跡 高昌故城 アスターナ古墳観光へ 夕食はシシカバブなどシルクロードの名物料理です。 夕食後、ウイグル族の民族舞踊をお楽しみいただきます。	トルファン泊 ホ・レ・名
4日目 9/20	終日バスにてトルファン観光、西遊記の舞台で有名な 火焰山 、古代ウイグル文化を伝える ベゼクリク千仏洞 、漢代の生活の面影が残る 交河古城 、砂漠の地下水路 カレース を観光します。 夜、寝台列車にて柳園へ【一等寝台列車】約10時間40分	列車 泊 ホ・レ・レ
5日目 9/21	朝、柳園到着後バスにて敦煌へ、朝食後映画「敦煌」のロケ地 敦煌古城 午後ラクダに乗って雄大な 鳴沙山 、 三日月の湖 月牙泉 観光	敦煌 泊 レ・レ・敦
6日目 9/22	午前、砂漠の中の画廊、世界遺産 莫高窟 を観光。このコースでは第16, 17, 96窟を中心とした一般窟に加え、特別窟の第57, 158, 159窟にもご案内します。午後、漢朝の西端にあった関所 玉門関 陽関 観光	敦煌 泊 ホ・ホ・レ
7日目 9/23	午前空路西安へ?、到着後西安市内観光、西の城門に登り西安市内を一望した後空海が修行した 音龍寺 、玄奘三蔵ゆかりの地 大雁塔 、その後ホテルへ	西安 泊 ホ・レ・レ
8日目 9/24	終日西安郊外・市内観光、世界遺産 秦の始皇帝陵 、世界遺産 兵馬俑坑 、楊貴妃のロマンスで有名 華清池 陝西博物館 碑林 などを観光 夕食は西安名物の餃子づくし料理です。 お部屋は出発まで、ご利用いただけます。	機 中 泊 ホ・田・名
9日目 9/25	深夜ホテルで休憩後、空港へ 西安発JALチャーター機にて、空路関西空港へ?(約4時間) 午前関西空港到着 解散	機

入場観光・下車観光・ホ=ホテル、田=田舎料理、名=名物料理、敦=敦煌料理、新=新疆料理、レ=レストラン

利用予定ホテル：ウルムチ：環球大酒店・トルファン：緑州賓館・敦煌：敦煌賓館。
西安：唐華賓館

上記のとおり企画しました。お友達お誘いあわせの上ご参加頂きます様ご案内申し上げます。
ご参加ご希望の方は下記へご連絡ください。

社会還元センターグループわ TEL 743-8101
または 大坪英二 TEL&FAX 709-2484

説明会等については後日お知らせします。
なお、状況により予定が変更になることがあります。



カナディアン・アカデミー (C A) からのてがみ

本号6ページで報告したカナディアン・アカデミー校へ出向いて行った昔遊び塾に対して同校の子供たちから可愛いお礼の手紙がどっさり送られて来ました。その一部を紹介しします。なお子ども名前は全部省いてあります。

幼稚園



2年生

「和」のグループのみなさまへ
竹とんぼ たのしかたです。こままわしむずかしかったです。かみひこうきをつくりました。いっこかみひこきとびすきてとれなかつたです。

和のグループのみなさまへ。
たけうまも、たけとんぼも、ぜんぶたのしかたです。わたしたちのためにいしょうげんめーにたけうま、たけとんぼもつくってくれて ありがとうございます！わたしのともだちたちもたのしかつたとゆっています。ありがとう！

シルバーカレッジのみなさんへ
こままわしや ひこうきや いっぱいつくつたのしかつたです。わたしのともだちの ひこうきは すっこく とんで バスケットフープの 上 に のつて おちてきませんでした。ほんとうに ありがとうございますございました。

3年生

「和」のグループ 方々へ
竹馬はすごく楽しかったです。ぼくは竹馬が大すきです。こままわしはともむずかしかったです。竹とんぼはおもしろかったです。

和のグループの方々へ
竹馬がほんとにむずかしかったです。シーエーにもいっかいきてください。竹馬をやってくれてどおもありがとうございます。

「和」のグループの方々へ
わたしはお手玉が一ばんすきでした。とてもおもしろかったです。こままわしはちょっとむずかしかったです。たけとんぼはいえにかえつたらこわれてしまいました。またきてください。

シルバーカレッジのみなさんへ

いまおつかれですか？
きのうは ほんとうに ありがとうございます。

きのう たけとんぼと ぶんぶんまわしが ものすっこすきでした。できなかつたけど たけうまがいまでも したいです。スタンプラリーの しょうひ

んもかんがえてます。これからも おからだを おだいじに。

4年生

「和」のグループの皆様へ
きのうは日本のあそびやゲームをたくさんおしえてくれてありがとう。竹とんぼを家にもつてかえつて何回もやりました。また来てください。

「和」のグループの皆様へ

この前はありがとうございました僕は竹とんぼで母があそんでいました。お手玉も、上手になりました。竹馬では日本風にはできませんでしたが、またいらっしゃってください。

シルバーカレッジのみなさんへ

きのうのゲームをすっこたのしかつた。とくにこまがおもしろいかつただからおしえたのありがとうです。わたしはたくさんあたらしゲームをならいました。もいかい ありがとう。ぶんぶんこまの ありがとう。

5年生

和のグループの皆様へ
火曜日に 私達の学校へ来てくれて本当にありがとうございました。私は竹とんぼが一番楽しかつた

ですが、全部楽しかつたです。私はこま回しは下手かつたので、もっと練習して じょうずに なりたいです。お手玉は、次は三つ以上でできるように なりたいです。ぜひまた いらして下さい。◎

「和」のグループの皆様へ

この間、日本文化の事を教えてくださつて、まことにありがとうございます。私にとってはとても楽しかつたです。私は日本人なのに、私知らない事がたくさんあつて、いろんな物の事を知る事ができて、今はとてもうれしく思つています。もしよければぜひまた ここへいらしてください。いつでもお待ちしております。

シルバーカレッジのみなさんへ

シルバーカレッジのみなさん、きのうは ありがとうございます。私は日本のたのしいことをならつてつてもうれしいです。日本は かんこくのたのしいことよりもつとたのしいです。またこんど、ともだちといっしょにきてやりたいです。つてもありがとうございます。

編集後記

シルバーカレッジ 10周年記念誌の編集委員としてのよしみで、朝日広報部長から情ぎやら編集の誘いを受けた。約1ヶ月考え悩んだ末、引き受けたのはよいが、今号編集

の手伝いをするうちに大変な仕事を背負い込んだと反省しきりである。今後は朝日先輩はじめ皆さん方のご協力を得ながら読みやすい紙面作りを目指したいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひします。(ニシ)